

ココがスゴイ

独立した2個のCMOSカメラを採用。2アングル撮影が可能で、取り付け時の自由度がとて高い。風切り音を考慮してマイクをセットできるのもうれしい!

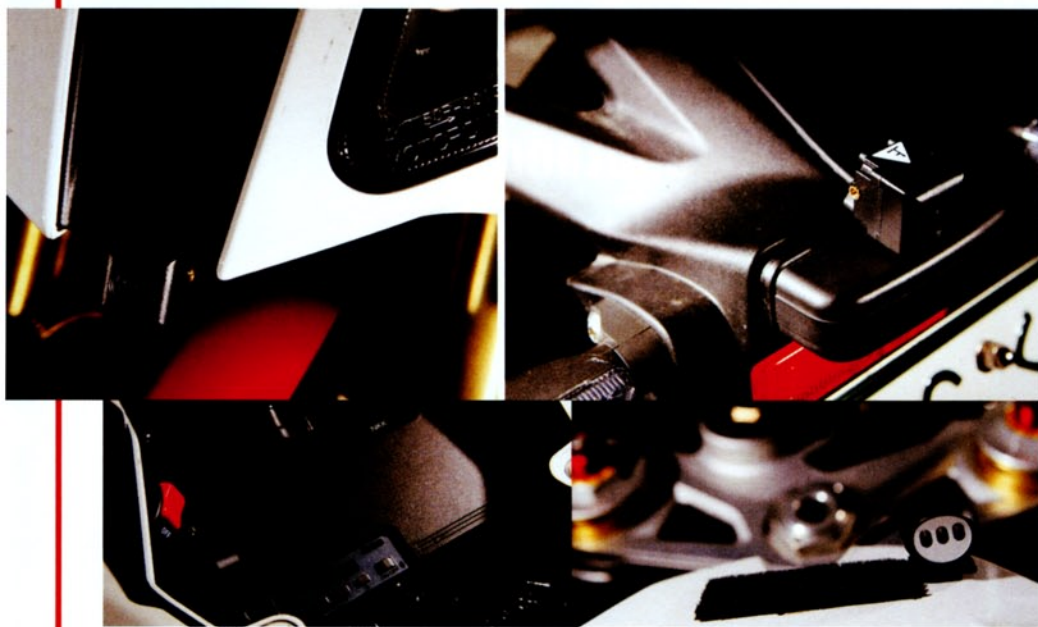
ココがマイチ

カメラ単体の装着ですべてのセットアップが完了する一般的なカメラと比べると、事前の配線やセッティングが複雑。ただし、機能を考えれば納得できる。

同時に2アングルの景色を記録できて 地図情報とリンク可能なオンボードカメラ

ライダーの間で大流行中なのがオンボードカメラ。ツーリング派なら旅の思い出を、スポーツ派なら迫力の走行シーンを、公道派なら万が一の事故時に役立つ記録データを、手軽に撮影できる点がウケている。今回テストした「ニリドラ」DRA-014は、二輪用オンボードカメラの中でも特に機能が優れたモデルだ。

テスター●田宮 徹
テスト方法●市街地、高速道路
テスト期間●1日



記録媒体はCFカードで、本体購入時に8GB仕様が付属。これ1枚で連続7時間の録画ができる。メインユニットは、120×85×26mmの寸法。さまざまなBMWモデルのシート下に搭載可能だ。



再生画像は、2個のカメラ映像に加え、音声、Gセンサーによる振動情報、GPSから算出した速度情報と地図情報などがすべてリンクされる。付属の再生ソフトは、ウインドウズマシンに対応する。

満載機能で映像のプロ気分を!

ライディング映像を記録できる「ニリドラ」DRA-014。その最大の特徴は、2個のカメラを採用して、2アングルの映像を同時記録できるところにある。

たとえば、複数人で行くツーリングで使うなら、ひとつは前方の景色、もうひとつは後方の仲間を映すことが可能。サーキットやワインディングでの使用なら、ひとつはローアングルで迫力満点の前方視界を映しておいて、もうひとつはライダーの動きやメーターを記録する、なんて使い方ができる。CMOSカメラの水平画角は120度が確保されているし、メインユニットとCMOSカメラ部が分離しているので、車体のいろんな場所にカメラを装着して、斬新なアングルの録画に挑戦できるというのも楽しい。

もちろん記録した2つの映像は、PCでの再生時にリンクさせることが可能のほか、メインユニットに備わる映像出力端子(N-TST出力)からもモニター確認が出来る。それどころか、「ニリドラ」DRA-014にはマイク、GPS、加速度センサーが搭載されていて、音声や地図表示による軌跡、さらに振動データを、映像と同時に再生することができる。

バイクのバッテリーから電源を供給して駆動(バックアップ電源付き)。レコーダーのメインユニットからCMOSカメラまでは、約2.3mのケーブル長がある。装着パーツの搭載位置を考慮するのも、これまた楽しい時間だ。



テストを終えて

機能を充実させるために多くのセンサー類が採用されていることから、バイクへのシステム搭載作業は少し複雑だ。とはいえ、基本的にはCMOSカメラとマイクの搭載位置を重視してセッティングすればよいので、こういうアイテムが好きな人であれば、それほど問題ないだろう。メインユニットを収納できるかどうかのカギとなるので、まずは愛車とのマッチングを検討してみたい。

性能を考えると、この製品はかなりコストパフォーマンスに優れている。バイク遊びの新たなツールとして、便利な実用機器として、ぜひ搭載をお薦めする。